

氏 名	白 崎 義 範
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4048 号
学位授与の日付	平成17年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	PREDICTING POSTOPERATIVE RENAL INSUFFICIENCY IN PATIENTS UNDERGOING NEPHRECTOMY FOR RENAL MALIGNANCY: ASSESSMENT BY RENAL SCINTIGRAPHY USING ^{99m} TECHNETIUM - MERCAPTOACETYLTRIGLYCINE (腎悪性腫瘍に対する ^{99m} Tc-MAG3腎シンチグラフィーによる 腎摘除術後の腎機能障害の予測)
論文審査委員	教授 金澤 右 教授 槇野 博史 助教授 田中 弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腎の悪性腫瘍患者に対し、^{99m}Tc-MAG3による腎シンチグラフィーを行ない、腎摘除術後の腎機能障害の予測を試みた。対象は男性 22 人、女性 13 人で、術前と術後 1 ヶ月目に腎シンチグラフィーが行われ、同時にクレアチニークリアランス(Ccr)が測定された。^{99m}Tc-MAG3 の腎クリアランスは各腎毎の腎摂取率に基づいて計算され、分腎機能の指標とした。結果、術前の健側腎の MAG3 クリアランスは術後の Ccr と有意に相関しており、術前の健側腎の MAG3 クリアランスが 130ml/min/1.73m² 以上の症例は、術後の Ccr が 40ml/min/1.73m² 以上を維持していた。以上より、^{99m}Tc-MAG3 腎シンチグラフィーは腎摘除術後の腎機能障害を予測するのに有用であり、術前の健側腎の MAG3 クリアランスが 130ml/min/1.73m² 以下の症例は、術後の腎機能障害の危険因子であると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、腎悪性腫瘍の患者に対する腎摘出術の腎機能における可否を、術前後に施行した ^{99m}Tc-MAG シンチにて評価検討したものである。各腎の腎摂取率に基づいて計算された分腎機能、すなわち MAG3 クリアランスは、クレアチニークリアランスの結果と対照され、その意義について評価された。その結果、具体的な数値を持って腎摘出術後の腎機能障害を予測するのが可能であることが示された。このことは、従来報告されておらず、今後腎摘出術を患者に安全に施行をする上で大きな進歩になると考えられ、臨床価値のある研究と評価できる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認められる。